

## 2019年第2回8月東大本番レベル模試 所感

【英語】(文責:木村)

総評: 標準～やや難

全体的に過去問と比べて突出して難しいという問題もなく、東大と同じ形式の良い問題をとけたのではないのでしょうか。今回の模試で自分に足りないのは単語、文法の基礎力なのか、読解力なのか、日本語を簡潔な英語にまとめる表現力なのか、リスニングの能力なのか、はたまたもう英語は完璧なのか、よく分析して勉強に活かしてほしいです。まだ入試まで時間は残っています。伸ばせるところをしっかりと伸ばし切りましょう。がんばってください!

### 1 (A): 標準

日本語要約問題です。文章の内容自体はそこまで難解ではないですが、**telling** と **showing** を明確に日本語で説明することに躓いたひとはいるかもしれません。しかし、第二段落以降を読み進めていくと、二項の明確な対比や具体例が続くのでそこから適切な訳語を当てられると思います。要約に具体例を含めようとすると重要な要素がこぼれおちる可能性が高いので抽象化された部分を書きだしましょう。

### 1 (B): 標準～やや難

長文の論旨展開の理解に関する問いです。短い時間でかなりの分量を読む必要がありますが、前後のつながりを考慮して読んでいけば確実に点数がとれます。(イ) は文章全体を通して、筆者が今後身体的能力にも差が生まれるようになることを懸念していることから判断できます。

### 2 (A): やや易

絵が何を表しているか分かりやすかったと思います。時計がきらきら輝いていることから、男性がせっかく購入した時計をあまり利用していない感じが読み取れると思います。そこから彼が時計を時間の確認ではなく、ブランドとして利用していること、腕時計は必要ないと感じながらもつついつつけてしまっていることなどを想像し簡潔な英語でまとめましょう。

### 2 (B): やや難

和文英訳です。下線部は一文ですが、少々難解で書きにくいので、二文に分けて書くとよいでしょう。また「訪日旅行者数」や「高まるにつれ」といった書きにくさが残る部分は「日本を訪れる外国人」、「増えた結果」などと訳しやすい日本語に変換してみましょう。

### 4 (A): 標準～やや難

不要な語を含む整序問題です。本文を精読せず、文法的側面から問題を解こうとするとミスにつながりやすいです。文脈を意識しながら根気強く取り組みましょう。22-23 は冒頭にあるのでいったん飛ばして文脈を押さえてから再度取り掛かりましょう。24-25 は述語となれるのは **cut** だけであることに注目しましょう。26-27 は比較的簡単であり、本番はぜひともとりたいところです。28-29 は **ask** と **favor** の組み合わせについての知識が求められます。

### 4 (B): やや難

和訳問題です。文の構造を正しく把握できるかどうか重要になってきます。(ア)では as、、、 as~にきづけたでしょうか。真主語や条件節が間にはいつており見つけにくくなっていますがきづいてしまえば簡単に得点できるでしょう。(イ)は arrogance、disservice といった単語の知識に加え、第二段落では繰り返し反語が用いられており、下線部も反語的に解釈するのではないかという前後の文脈の理解も要求されます。ただ単に直訳するとかかなり不自然な日本語になるので注意しましょう。(ウ)は構文、単語ともに難しくないものでぜひともとっておきたい問題です。主語が無生物なので副詞的に訳すとよいでしょう。

#### 5：やや易

回想記からの出題です。話の構成は比較的簡単でしたので、うまく登場人物の気持ちが推測できれば高得点を狙えたでしょう。(A)は文脈を正しく読み解ければ難しくないでしょう。「僕」が嘘に頭を悩ます中、ひとり正直に答えた子を見た直後に下線部(A)があることから、正直に答えることを思いついていればと考えていることが分かります。(B)は冒頭から最後までの流れを押さえる必要があります。クラスでもっとも人気のない生徒だったはずが美しいウソをつくことで、周囲の関心を集めることに成功し、それが望まれていることに「僕」は気づきます。そしてそれなら簡単だとおもった直後の下線部Bなのでクラスのなかでの自分の立ち位置がよくなっていることを最後の一文で述べているのだと察しがつくでしょう。(C)については、(ア)の30は rise に立ち上がる、起き上がるといった動作も含む意味があることから、31は文脈からかんたんに判断できたでしょう。32も同様に雲が分かれたことから判断でき、33は land という着陸する、上陸するという意味の動詞を知っていれば取れるはずです。本番ではこのあたりは手堅く得点を重ねましょう。34は

So it goes. というコロケーションを知っているかどうかで決まります。少しずつ英語の表現に慣れていきましょう。

(イ)では「僕」が自分に酔っていたことからすぐにその状況がおわったという文脈理解とコロケーションの意味がわかることが求められています。簡単な問題ではないですが、ひとつずつ覚えていきましょう。(ウ)は直後で「僕」だけが残っていることを理解すれば容易に分かるでしょう。(エ)は合致しないものを探す問題です。この手の問題はあらかじめ目を通しておくと効率よく解けるとおもいます。

#### 【理系数学】(文責：榊井)

総評：やや難

全体を通して、計算量が多いなという印象でした。計算力重視の大問 1,2,3,6 はどれも、変数の置き方や計算の工夫をしなければ計算量が多くミスしやすい問題でした。とはいっても手が付けられない問題ではないので丁寧に解いて少なくとも 1,2 問は完答したいところです。発想力重視の大問 4,5 はその場で思いつくのは難しいので、(1)を解いて他に時間を回すのが正解だったと思います。

#### 第1問：やや易

条件を整理すると一変数の面積の最大値を求めるだけの典型問題なので、これは正解しておきたいところです。計算がメインの問題なのでミスが無いよう丁寧に。

#### 第2問：標準

(1)は図形的な問題でした。図を丁寧に書かないと分からなくなることがあるのでできるだけ丁寧に書きまし

よう。

(2)は $\{S_n\}$ が等比数列になることは気づくと思うので、無限等比級数の和になることが分かれば、後は計算するだけです。2倍角が混じり式変形が若干ややこしいので慎重に計算しましょう。(3)は(2)が求まれば定番の極限の問題なので解けるはずです。

### 第3問：標準

問題文のままだとややこしいので、条件を数式として整理できるかがポイントでした。今回は各事象の回数を変数としておくと見やすい形に整理できます。状況が整理できれば、(1),(2)とも場合分けも数通りで後は丁寧に計算するだけです。(2)では二項定理を利用する形が出てくるのでその処理と、いくつかの項を除外しなければいけないことに注意すれば答えは導けます。

### 第4問：難

(1)は2つの接線の交点がPであることから $a, b$ が $s, t$ で表せ、3点の座標が分かっているので面積公式より求まります。分数絡みで計算が面倒ですが、きれいな形になるはずだと思って丁寧に計算してください。(2)は整数的な問題で、とっかかりにくく、実戦では後に回す方が賢明だと思います。 $s, t$ は登場しないのでまず $S$ を $a, b$ で表すことを考えます。 $S$ が有理数という条件から、 $S$ の式を変形して左辺が有理数、右辺が有理数か不明な数( $\sqrt{\quad}$ など)の形にすれば何らかの条件が得られるのではないかという発想から $a, b$ の条件を絞っていく事が必要でした。その後も素数や平方数についての処理など整数問題に慣れていないと厳しい問題だったと思います。

### 第5問：やや難

(1)は典型問題でした。

(2)はまず、存在命題であることから背理法を思いつくことがポイントでした。さらに複素数の大きさ比較であることから2乗して考える方がいいと判断することも必要でした。(1)を利用することを考えると $\Sigma$ で足して $\alpha^k$ の項などを消す作業がどこかで必要なのではと気づければその形の式を作ることを目標にして問題を見ることができたのではないのでしょうか。発想力重視の問題なので少し考えて分からなければすぐに飛ばす判断が大切だと思います。

### 第6問：標準

設定自体は典型的ですが、計算における変数の置き方がポイントでした。この場合、長さを変数にするより角度を変数にする方が計算がかなり楽になります。長さを変数に置くとどうしても $\sqrt{\quad}$ が出てきてしまい、その後の計算がしんどいので、始めは長さを変数に取っていてもどこかで気づいて方向転換し、変数の置き方を変えてみる柔軟性を持てるようになると思います。

【数学文系】(文責：清水)

総評：標準～やや難

全体的に、確実に完答ができる問題が少なかったように思います。どの問題も解き方と計算において高い精度が求められていました。さらに(1)が解けると(2)が簡単に解ける問題もあり、リズムをつかめなかった方が大崩れする一方でリズムをつかめた方は高得点が望めるというピーキーなテストだったと思います。

本番でも十分にありうる構成だけに、できた方もできなかった方も本番ではどのように立ち振る舞えばよいのか考えながら復習することをおすすめします。

#### 第一問：標準

初手がわかり易く、何も考えずに挑戦した人も多かったのではないのでしょうか。しかし  $t$  を置かないで計算するとなかなか面倒な計算を強いられるはずで、多くの受験生が完答を狙ってくる問題ですので、計算ミスを起こさないよう今のうちに文字の代入を覚えましょう。また、(1) が解けた方は (2) を解けていますか？ (2) は積分さえできれば正解可能なサービス問題です。このような問題を落としてしまうと他の受験生との差が開いてしまうので（解ければ差をつけられるという事でもありますが）不安な方は基礎を見直しておきましょう！正解するためには見直しも有効です。(1) であれば感覚的に  $t$  の範囲は分かりますし、(2) であれば作図してみて囲まれる部分の中にすっぽりはまる三角形の面積と比較したりすると答えに自信が持てると思います。普段の勉強でも心がけてみてください。

#### 第二問：標準～やや難

分からないと思った方も (1) は気合で解きましょう。(2) は 3 項間漸化式が解けるかを問うている問題です。3 項間漸化式の解き方は知っているが面倒に思い手を引いてしまった方も多いのではないのでしょうか。解答では具体値を代入せずに解いており、これが思い付ければ案外簡単に解けたはずで、本番では解かないと差が開いてしまう問題ですが、最適な解法を思いつくことは意外と少ないです。本番までに、面倒でも解ききれぬスタミナを養っておきましょう。(3) はなかなか難しかったと思います。数学に自身のない方は具体値で計算をする傾向が特に顕著ですが、文字で置くという技をぜひとも身に付けてください。

#### 第三問：標準

(1) ができれば (2) が解ける問題です。(1) は  $Xk$  の積が 1000 になる場合があまり多くないことに気が付けば取っ掛かりがつかめるはずで、計算ミスをした方も多いかと思いますが、 $n$  に具体値を代入して計算すればミスに気づけたはずで、(1) がそのまま (2) につながるのを丁寧に解いていきましょう。(2) は  $P_n$  の値が  $n$  の増加に応じて減少することを示せるかがミソです。これの示し方は良く使うのでぜひ覚えておきましょう。知ってはいたものの持ち出せなかった方が多いかと思いますが、解法は使えなければ意味がありません。演習を重ねてすぐに解法を頭から取り出せるようにしておくの良いと思います。

#### 第四問：標準

まずはどのような位置関係になるかを想像することがポイントです。それができないと何をやればよいかが見えてきにくいというとっつきにくい問題でした。さらに形が分かっても計算が煩雑でミスをした方も多かったのではないのでしょうか。(1) は点 A と点 B の座標の変数を統合することが必要になりました。統合をせずとも解答は可能ですがミスをさけるためにも早めに変数の数を減らしましょう。(2) は解き方を思い付けばすぐにできたはずで、そのため簡単に感じた方もいるかと思いますが、4 乗の処理など腕が試されるポイントがちりばめられていました。このような問題をミスなくこなせる実力が本番までについていると理想的です。

【現代文】

《第一問》 文責：竹村

総評：標準

議論自体は二元論的解釈→その問題点を克服するヴィトゲンシュタインの論理、というようにシンプルですが、一方で具体例について多く述べられているためにどこを根拠として拾うかに迷ってしまう問題だと感じました。よって難易度は標準と判断しました。ところで、筆者である野家啓一氏の文章は、2018年の東大国語第一問にも出題されています。今回の問題文のような、東大が好む哲学的な議論に対する耐性をつけておくことも大切といえます。

(一) やや易

直前が具体例となっているので分かりにくいですが、そこを超えてさかのぼっていくと、三段落の4文目に『さまざまな「見え」は』という傍線部と同じ主語があり、そこを同内容と判断できれば述語は外さず書けたはずです。あとは冒頭から二元論的解釈に立って議論を進めていることを踏まえると、「対象と知覚を峻別する二元論的解釈に立つと」くらいの説明が望ましく、結果的に二段落後半から三段落をまとめる問題として処理できます。

(二) 難

「AならばB」の理由説明は複雑です。「AならばCとなる。だからB」という論理を組み立てるにあたりAをもう一度解答に書く必要があるのか、という疑問にぶつかった人もいると思います。字数や文脈にもよりますが、今回の場合書かずには論理が成立しないので書いていくべきでしょう。指示語の内容をきちんと追い、感覚与件理論の前提に矛盾することを示せばOKです。

(三) 標準

まず「誤り」はどうすれば説明できるかを考え、「～なのに…だということ。」という解答の枠組みを先に作ってしまうことが現代文の一つのコツかなと思います。あとは八段落から続く事物の知覚と事物の性質の知覚との区別をふまえ、二元論的解釈がそれを看過することを述べればよいです。ウサギ、アヒルの具体例を一般化した解答も可能だと思います。

(四) やや易

文章全体の把握を問う問題です。「どういうことか」の問題において肯定否定の入れ替えは良く使われます。今回の「混同されてはならない」→「区別すべきだ」の換言もその一種であり、そういう意識を持って根拠拾いを行うと見通しが良くなります。そうして先に文末の述語を決定し、本文全体の対比や類比、因果関係を後から足していくという120字問題の基本を忘れないようにしましょう。今回は傍線部の直前に「それゆえ」の因果が明示されていたので、文末の述語以外の決定も比較的容易だったのではないのでしょうか。

(五) 標準

どの漢字も簡単ではありませんが、書けるようにしておきたいレベルの語彙だと思います。

《第四問》文責：竹村

総評：標準

完答することは難しいが、要素を押さえて部分点を拾うことのできる問題が多いような印象を受けました。説明が難しい部分も見られましたが、文系専用の第四問においては本文中の言葉で説明できないときは思い切って自分で表現する必要がありますから、そのための勘を身に付けておくことも大切でしょう。

(一) 標準～やや難

まず、アの傍線部の一文そのものに主語が抜けています。したがってこの文を説明するということは、主語の補完が必要です。直前の「彼ら」を追いかけて捉えたいところです。

また傍線部は直前の一文と同じ論理関係、同内容であることに気づけば前半の換言も容易です。「文学的」の説明は少し厳しかったかもしれません。

#### (二) 標準～やや難

指示語を含む傍線部のどういうことか、の問題ですから、なによりもまず指示内容を特定します。直前の具体的な諸例をうまく自然の「不思議さ」や「力強さ」、あるいは「底知れなさ」などというようにまとめられれば及第点です。あとは後半について、傍線部の否定表現は積極的に肯定で言い換えていくべきです。この問題の場合は自力での表現も求められるという点で(一)と同様の難しさがありました。

#### (三) 標準

直前に「自分が文学を志していることは、決して口にしなかった。」と、傍線部と同内容があり、その直後に、因果が明示されていないものの作為性を恐れるという内容があるので、これを理由として拾うのはそう難しくないように思いました。あとは、周囲の人々が「気づかず」にため息を吐くことにポイントがありましたが、そこに明示されていない筆者の意図性を読み取るのは容易ではなかったでしょう。

#### (四) やや易

「どうでもよい人」は直前の「一級の人」との対比で表現されていますから、簡単に言えば、筆者が述べる「一級の人」の条件の裏を取ることで「どうでもよい人」の条件すなわち理由を説明する、という解法になります。傍線部と同じ主語を解答に含むかどうかを少し迷うかもしれませんが、問題自体は素朴なものでした。

### 【古文】(文責：石川)

#### 総評：標準

登場人物が古文にしては少なく、主語の判断に迷うことはほとんどないことから、文章読解自体は比較的容易だったのではないかと思います。ただしそれとは対照的に、傍線部には難しい内容も多く含まれており、夏のこの時期ということも考慮に入れると、かなり苦戦した人も多かったのではないのでしょうか。

#### (一)：アやや難、ウ(理科はイ)やや難、オ(理科はエ)やや易

ア：「かきくらす」という古文単語は、ノーヒントで問われる場合は、「悲しみで目の前が暗くなる」ことを意味することが多いのですが、今回は例外だったようです。これはできなくても仕方ありません。「さへ」の現代語訳は正確に行い、部分点を狙っていきましょう。

ウ(理科はイ)：直訳だけでは意味をなさず、自分で言葉を補って訳す(≒説明する)ことが要求された問題です。状況を考えれば、「なんぢ(忠盛)」が呼ばれているのは鬼らしきものを討伐するためですから、「(鬼を退治できるものとして)お前がいるだろう」のような訳になります。ただしこの問題も難しい部類です。

オ(理科はエ)やや易：この問題は比較的簡単なので確実に取っておきたいところです。何をするのに「しかるべき」便宜が無かったのかといえば、直前に書かれている通り、「この事を奏聞する」機会ですね。では、「この事」とは何かと言えば、女房が「すなわち男を産」んだことです。これらをまとめれば模範解答となります。ただ現代語訳で傍線部をそのまま解答に使うのはあまりよろしくないで、「しかるべき」→「適当な」などというふうに、適宜言い換えておきましょう。

#### (二)(文科のみ)：やや易

5行後にそのまま答えが載っています。サービス問題ですね。

#### (三)(理科は(二))：標準

傍線部より前で忠盛が行った、「思慮深い振る舞い」とは何か？と考えると、「これを殺したらんは、むげに念なかるべし」という忠盛の考えが見当たります。これもそれほどひねりのある問題ではないので、苦手で

ない限りは得点しておきたいです。

(四)(文科のみ)：やや難

「ただもりとりて」の部分が掛詞になってるんだろうな～～、というのはすぐ分かるでしょうが、「忠盛とりて」と何がかかっているんだ？などと考え始めてしまうとキリがありません。言い回しとして聞いたことがなかったとしても、「ただ盛り取りて」という、「日本語っぽい」言葉として解釈できれば正解です。正直、この部分は間違えてしまっても仕方ないと思います。

(五)(理科は(三))：標準

直前の和歌の解釈問題です……とはいえ、「きよくさかふる」の部分を正しく漢字変換することができれば、ほぼ答えにたどり着いたも同然です。

【漢文】(文責：石川)

総評：やや易

先週の東大実戦と比べればやや簡単な印象を受けますが、「易」「為」など、重要な多義語が要所に出てきており、解釈を間違えると総崩れになってしまう、という性格を持った問題でもあります。この問題を通して、基礎的な単語や文法を固めることが漢文では最も重要である、ということが改めて認識できればよいのではないかと思います。

(一)：a やや易、b 易、c やや難

a：「以てす」をどこまで説明するかは悩みどころですが、「手段とする」などではいくぶん抽象的すぎるので、「餌にする」くらい書ければ十分でしょう。

b：易です。「易」の問題だけに。易は「イ」と読むときと「エキ」と読むときで意味が変わる、というのは漢文でしょっちゅう問われる話題です。そういう意味では「やや易」を「ややえき」って読むのは間違いということになりますね。どちらでもいい気もしますが。

e：「上」とはどういう意味か問われた問題です。これについては重要単語でもなんでもないので、文脈から推測するしかありません。前後を見ると「たいへんな苦勞をして手に入れるもの」的なニュアンスで語られているので、「大事な」などと書ければベストだと思います。

(二)(文科のみ)：易

全問で問われた「易」の意味がわかっているれば迷いようがありません。これはサービス問題でしょう。

(三)(理科は(二))：やや易

ここでの「為」の読みは、文脈的に「なす」ではなくて「ため」ですね。「豈」を含んだ反語は超重要なので、怪しい人は必ず基礎的な部分を復習しておいてください。

(四)(理科は(三))：やや難

「大計」が「小計」の対義語であり、目先の損得に左右されない大局的なものの見方のことを言っている、というのは注を見ればすぐわかりますが、それが具体的にどんなことを言っているのか？となると、悩んだ人も多いのではないかと思います。多少解答の方向がずれてしまい、部分点 2～3 点くらいになってしまってもこの問題については仕方ないでしょう。

【世界史】(文責：芳仲)

総評：標準

全体的に典型問題の出題が多く、学習が進んでいる人は平易に感じたかもしれません。ただし、基本的な解答要素は皆が思いつくからこそ、細かい知識の差、表現力の差が如実に表れます。時代背景を含めた正確な理解、適切な用語を用いた記述を今後とも心掛けてください。復習にあたっては、自分が取りこぼした要素は何か、どうしてそれを落としてしまったのか（知識不足か、思い出せなかったのか、など）を考えましょう。

知識が足りず解答ができなかった人は、秋に向けて一層学習を加速させていってください。

#### 第一問：標準

ヨーロッパについては、リード文と指定語句を見ればある程度の記述が可能です。自分で付け足さなければいけない知識は、封建社会動揺の原因のみかと思います。一つ一つの知識をきちんとつなげられるかがポイントでしょう。

一方の中国については、大体の王朝名は覚えていても…という方も多かったのではないのでしょうか。リード文などで与えられるヒントが少ないときには、書きづらいことが多いですが、世紀ごとに区切る、王朝ごとに区切るなどして、特徴を自分で書き表せるように訓練することが有効です。

また、問題文には対比に注意せよとありますが、模範解答を見る限り、明示的な対比はありませんでした。ただし、対比が、ヨーロッパとの比較により中国について記述する内容を深める一助となるのは間違いありません。17世紀のヨーロッパ（主権国家の分立）と中国（清による統一）の部分には、両者の対照的性格が顕著に表れていると思います。

#### 第二問：標準

全体的に「聞いたことのある語句ばかり問われている」という印象だったのではないのでしょうか。その分、文脈に応じて問題の求めることを解答する必要があったと言えます。

問(1)は設問で求められている用語を盛り込んだうえで「共通の弊害」を書くと字数にほぼ余裕がないので、迷う部分は少ないかと思います。問(2)(a)は「イスラーム帝国」という文脈の判断が重要です。(b)については、バルカン半島という部分で戸惑った人もいるかもしれませんが、「バルカン半島＝非ムスリム」と気づけば簡単でしょう。問(3)はどちらも典型題です。学習が未達だった人は、教科書などを確認してみてください。

#### 第三問：やや易～標準

(1)にやや戸惑うかもしれませんが、前451年という部分でこのころの著名な政治家であるペリクレスを解答できると良いと思います。(2)についても同様に、4世紀が決め手です。

(3)(4)(8)(9)については、世界史の知識というより、日頃からの見聞の積み重ねという印象を受けました。このようなタイプの問題は散見されるので、忙しい時期とは思いますが、ニュースをチェックするなどしてみると良いかと思います（もちろん、通常の学習が優先です）。(5)は資料集の頻出項目です。大胆な官僚制へのシフト、則天文字の制定などとともに覚えておきましょう。(6)(10)と併せて「知っていれば解ける」型の問題だと言えます。

(7)は「クルド人」または「12世紀後半」で解く問題です。クルド人は些末な情報のように思えますが、他にも出題例があるので覚えておいて損はないでしょう。12世紀後半という年号で解く場合は、十字軍との絡みを想起すると分かりやすいと思います。

## ■地理（担当：熊谷）

### 《総評》

地理は典型問題を確実に取れば合格です。今回のセットでは客観問題が後の設問に影響するケースが多くあったので、基本的な問題を取ることが出来たかどうかで大きく点差が開いたのではないかと思います。東大型の問題を解くときは、客観問題は確実に満点を取ろうという意識を持って臨んでもらいたいです。

### 《第一問》

#### 設問 A 標準

ほとんどの問題が基本的な知識で論述することができます。自然環境と人間活動の関係は頻出分野ですので、しっかりと整理しておく必要があります。

(1)客観式の問題を正しく答えることが出来ないと、後の問題も連動して間違えることになります。一方で後の設問が客観問題のヒントになることもあるので、設問全体を見渡しつつ確実に得点しましょう。しかし、この客観問題はとても簡単ですので即答できた人が多かったでしょう。

(2)これは基本的な知識で解ける問題です。フィヨルドとエスチュアリーの原因や特徴の違いをきちんと整理できていた人は、そこにおける人間活動の違いを結びつけることは容易だったでしょう。復習の際には他の海岸地形（リアス海岸など）の原因や特徴も一緒に見ておくと良いでしょう。

(3)これもエスチュアリーの原因を押さえれば、新期造山帯の特徴をふまえて想像して書くことが出来たのではないのでしょうか。一行なのでコンパクトにまとめる力も求められていました。

(4)cの地域と言われて山岳氷河や海岸砂漠を想像することが出来たのでしょうか。近年の地球環境問題と言えば地球温暖化が大きなものですので、それを絡めて論述すれば一貫性のある答案が出来たのではないのでしょうか。知らないことでも、連想していくなかで、1つの一貫した論述を組み立てる力が求められていました。

(5)これも問題文中にヒントがたくさんあるので、それらを参考にしながら想像して論述すれば良かったと思います。あとは、聞かれていることが二つありましたので、しっかりとどちらの質問にも答えることが出来ていたか確認してみてください。

#### 設問 B 標準

(1)イは悩んだかもしれません。これを機に覚えておきましょう。

(2)これも想像で描く必要があったかもしれません。もし解答が思い浮かばなくても彼らの伝統的生業については書いてほしかったです。地球温暖化に伴う問題は、今後も問われる可能性が十分にありますので、確認しておきましょう。

(3)「政治的な緊張感」も「経済的な期待感」も典型的な内容です。二行しかないのでコンパクトにまとめる必要がありましたが、確実に点をとりたい問題です。

### 《第二問》

各国の産業構造については、地誌の学習の中でしっかりと押さえたいと思います。

#### 設問 A やや難

(1)典型的な判別問題です。他の問題も参考にして確実に点を取りましょう。

(2)先程も述べたように(1)での判定を誤るとこの問題も自動的に0点になってしまうので注意しましょう。日本での円高と人件費高騰により工場の海外移転が進んだということは基本事項です。ポーランドで社会主義から資本主義へと移行したことは多くの方が分かったと思いますが、そこに産業構造を絡ませるのは難しかったかもしれません。

(3)これも同様に (1)での判定を誤ると自動的に 0 点になってしまうので注意しましょう。マレーシアではルック・イースト政策、ベトナムではドイモイ政策が行なわれたことは分かったでしょうか。それらの内容をしっかり押さえていれば共通点を述べるのは容易だったはずですが、名前だけしか知らなかった人は、内容までしっかり確認しましょう。

(4)量的、質的の意味がよく分からなかったという人が多いかもしれません。量的変化の方は比較的簡単で、比率の変化のことを指しています。質的变化に関しては多様化のことを指しています。この理由に関してはその場で考えて補う必要がありました。

#### 設問 B 標準

観光や情報通信、知的財産などどれも問われることの多い内容です。なぜそのようなデータがでるのか、理由とともに覚えておく論述も簡単に解くことが出来るのではないかと思います。

(1)特に迷うところはないかと思います。繰り返しになりますがこれも後の設問に響く問題なので注意して慎重に解きましょう。

(2)日本の観光については良く問われるので、資料集などを用いてしっかり整理しておきましょう。またその問題点についても同様です。

(3)とても易しい問題です。素直な論述が求められることもあるということを覚えておきましょう。

(4)知的財産権がらみのお金の動き方については、知らなかった人もいるかもしれませんが、今ホットな話題ですのでこれを機に覚えておきましょう。

#### 《第三問》

時事的な内容が問われています。普段からニュースを見ていた人にとっては馴染みのあるトピックだったと思います。本試でもたまに時事的なことが問われます。今からニュースを見る時間的余裕もないと思いますので、模試で出題されたトピックだけはしっかりと押さえるように心がけましょう。

#### 設問 A やや難

(1)地図と国名が一致すれば解くのは容易だったのではないのでしょうか。普段から地図帳を用いた学習を心掛けましょう。

(2)難民の定義を覚えていた人は簡単に論述できたと思います。覚えていなかった人も想像で書いてみて、少しでも点になればよかったのではないかと思います。

(3)これも知識で差が付きまして。年代からアラブの春を想起出来ていれば合格点だと思います。

(4)これもまた知識が問われた問題でした。解答解説を熟読してください。

(5)これは一見難しそうですが、少し考えれば論述の方向性は見えてくるでしょう。具体的な事例が想起出来た人は自信を持って論述できたと思いますが、そうでなかった人も考えられることを書けばかなりの要素を押さえることが出来たと思います。知識がないからとあきらめるのではなく、粘り強く考えることで答えが出る論述もあることを忘れてはいけません。

#### 設問 B やや難

(1)典型問題です。関連事項として入管法改正の年代などもしっかり確認しておきましょう。

(2)資格外活動がアルバイトだと分かれば簡単な問題でした。ここで挙げられた地域がどんなところなのか考える中出答えにたどり着ければよかったなと思います。

(3)広島県と高知県の類似点を考えることで正解に近づくことが出来ます。解説を読んでも分からなかった人には、日本各地の特産や有名な産業について復習しておくことをおすすめします。

## 【日本史】(文責：清水)

総評：やや易～標準

第三問までは必要な知識も基本的なものがほとんどで文章の読み取りができれば得点が可能でした。知識がまだ追いついていない人でもある程度の得点が可能な問題構成だったかと思います。しかし本番ではやはり教科書レベルの知識が確実に無いと差が大きく開いてしまいます。今回得点が良かった方も気を抜かずに学習してください。

第一問：標準

Aは(1)(2)から読み取る問題でした。京に集まった人々の役割は比較的簡単に答えられると思いますが、文章中に歴史用語が明記されていないため歴史用語の記述も必須になっています。基本的な用語ですので答えられないことのないようにしたいところです。Bも文章から素直に読み取れば解答の骨子は決まるはずで、一方で具体的な事象や用語の記述も必須なので差が付きやすい問題でした。東大入試では教科書レベルの知識は問われると思っておいた方が良いでしょう。また、東大寺の大仏が当初は金色だったのも有名な歴史のトリビアですので覚えておいて良いかもしれません。

第二問：標準

Aは十七世紀初頭の為政者が徳川家康であることを思い出せば比較的簡単に解答できたはずで、講や道場、御文は知識ですので本番までに頭に入れておきましょう。Bは親鸞の思想とは何かを思い出すことがポイントでした。このあたりの思想は混乱しやすいので整理して覚えておきましょう。どのような集団と捉えられていたかについては戸惑った方も多いと思います。しかし、文章中から考えられる範囲なら大きな減点は無いですから時間をかけすぎないようにしたいところです。Cは完全な知識問題でした。石山戦争は有名ですのであらましをおさえておきましょう。今回は二行問題でしたが三行程度はかける実力が欲しいです。

第三問：やや易～標準

Aは世界史選択者に有利な問題だったのではないのでしょうか。国際関係に関する問題は日本史でも頻出ですので解けなかった方は押さえておきましょう。特に朝鮮使節は山川の教科書に特集ページがありますので、しっかり読み込んでおきましょう。また文章(3)を踏まえて「大君」は書く必要がありました。知識を入れておきましょう。日本側の理由を国威向上にした方も多いかと思います。(3)の解釈をどのように行うかによって解答の筋道が変わる問題だったのではないのでしょうか。個人的には国威向上でも大きく間違っていないと思います。Bは想像力を問う問題です。本草学がどのようなものか分かっていたら筋を間違えることは無かったでしょう。朝鮮人参のくだりはこの機会に覚えてしまいましょう。

第四問：やや難

この時期に近現代まで学習が進んでいる方は少ないのではないのでしょうか。A、Bともに知識が無いと回答が難しい問題でした。Bに関しては55年体制など聞いたことのある方もいたかもしれませんが、内容までは理解が追いついていなかったかもしれません。近現代の学習は政党が沢山出てきて悩ましいものですが入試で出たときに後悔しても遅いのでしっかりと学習しておきましょう。本番までにこの問題が簡単に解ける

よくなっていると理想的だと思います。

【物理】文責：栗本

総評：やや難

全体として解く方針すら思いつかないような問題は少ないです。しかし、計算が煩雑なものは少なからず見受けられました。深く本質的な理解によって、悩む時間をおさえて計算を丁寧にする余裕を確保できると思います。

第1問：難

前半は基本的な衝突の問題であまり難しくありませんが、後半からは煩雑な計算を要したり思考力を要したりします。試験時間内の完答は目指さなくてもいいでしょう。

I：易

基本的な問題です。

II：難

計算量が多くて時間がかかります。(1)、(2)、(3)は解答の方針自体はすぐ立ちますが面倒な計算があります。(4)は対称性に気付かないと計算量が増えてしまいます。他の設問との時間配分を意識しつつ解き進めましょう。

III：標準

これまでの設問を利用すれば比較的スムーズに解けます。極限を考える問題は頻出なので考え方に慣れましょう。

第2問：標準

I：標準

回路に関する標準的な問題です。キルヒホッフの法則に基づいて立式して解いていけば難しくありません。

II：標準

こちらも回路に関する標準的な問題です。ただし(2)でやや煩雑な式を扱うことになるのでミスの内容に気を付けて欲しいです。

III：標準

エネルギーについて関係式を解くという方針はすぐに見抜いてほしいです。本問でキーとなるのは回路のなかに発光ダイオードが含まれていることです。発光ダイオードを電荷が通過するかどうかには注意してください。

第3問：標準

I II：標準

ドップラー効果に関する標準的な問題です。ただし音が発せられる時間と音が観測される時間差を扱っており、また設定もありきたりではないので、波の本質的な理解を問われたと思います。

III：標準

やるべきことはわかりやすいです。(2)は計算が面倒そうですが素直に解ける上に証明問題でミスが起こりづ

らいのでぜひ解ききりたい問題です。

【化学】文責：小川

総評：標準

夏模試を経て、時間配分などがある程度決まってきたのではないのでしょうか。この問題に関して言うと、すぐ終わる問題がなく、時間のかかるセットだと思います。もう1科目にもよりますが、とれるところをとって、時間のかかる問題は捨ててもよいと思います。最初に全体に目を通して、理科2教科でとりたい点数から化学で何点とればよいかと考えられたでしょうか？戦略面が大事になってくるかと思います。時間配分を失敗した場合はもう一度考え直してみましよう。

第一問：やや易

有機化学の問題です。内容はよく見るものだと思います。このセットにおいては速く正確に終えたい問題だと思います。ただ、焦って最初の方で間違えてしまうとそこから全部間違えてしまいうるので、最初の方ほど注意深く、慎重に解いてください。あと、構造式の例はちゃんと確認しましょう。

ア. 有機化学とは関係のない燃焼熱の問題です。計算が面倒くさく、あとの問題にかかわらないことから飛ばすという選択をしてもよいと思います。(1問目から飛ばすのはなかなか勇気のいることだとは思いますが。) やっていること自体は難しいことではないので、時間をかければ確実にとりたい問題ではあります。

イ. よくきかれる記述です。わからなかった人は覚えましょう。

ウ. けん化に関するよくある問題です。油脂1 mol あたり脂肪酸3 mol であることに注意しましょう。

エ. FはOが4個なので、Aの3つの脂肪酸は、Dが2つでEが1つとわかります。それがわかればEの分子式はわかります。またDは飽和脂肪酸なので、Cの数をxとでもおいて、ウ.で求めた分子量から分子式がわかります。Dは飽和脂肪酸だから分子式はわかる、ちゃんと解けるようにこの問題は作られているな、と思いながら解けると余裕をもって解けていて良いのかなあとと思います。

オ. プロパン酸の構造がわからなくても、Cが3個であることがわかればこの問題は解けます。脂肪酸が直鎖であることには気をつけてください。それを考えれば、プロパン酸の構造もおのずとわかるわけですが、。

カ. グリセリンにDとEの構造をくっつけるだけです。ただ、何度も言いますが、記入例に従って書きましよう。今回だと、繰り返し並んだ部分は( ) でくくる、炭素間二重結合まわりのHを開かない、などを気を付けましよう。

キ. 図1-3と図1-4で炭素の個数が1個減っていることから、二酸化炭素は1個だとわかります。図1-4で二重結合が3個であること、開環によって炭素の数は減らないことに注意ましよう。どうせ開環する問題なんだろうなあとと思いながら解けると良いと思います。

ク. B2は問題ないと思います。B1に関してですが、不斉炭素の数を0と書ける勇気は必要かなと思います。立体異性体の数ですが、しっかり立体をイメージましよう。単純に2の～乗などと覚えるのは危険だと思います。(多くの場合、それで答えは合うわけですが、。)

ケ. 簡単ではないです。ぱっと思いつかなかつたら飛ばすのが良いと思います。パズルのような問題ですね。

## 第二問

I : 標準 II : やや易

I 無機化学中心であり、あまり理論化学に絡んでいない問題です。ア.~オ.までは計算がないので、そこを速く終わらせ、カ.に取り組むといった感じでしょうか。

II 標準電極電位から電池について考える問題です。見慣れない人も多いのではないのでしょうか。見たことない問題はじっくり問題文を読み、理解してから解きましょう。理解できなかつたら早めに飛ばし、あとから戻ってくるのがよいと思います。この問題の内容（電池の仕組み）を知らなかった人はこれを機に知っておいてもよいかもしれません。

I

ア.a 知識問題です。知らなかった人は無機化学をもう一度見直してください。

b 酸化数が+2、+4、+7で Mn だと気付いてほしいですね。そうでなくても乾電池の酸化剤で気付きましょう。赤紫色はよく聞かれるのでしっかり覚えておきましょう。

イ. ジュラルミンの主元素がアルミニウムであることは知っておいてほしいですね。そうでなくても両性元素と融解塩電解からわかりますが、両性元素が錯イオンになることは忘れないでください。反応式はその場で作ればよいので、式をそのまま覚える必要はないです。

ウ. 電気伝導性や熱伝導性が大きく、導線に用いられるということから銅のことがわかります。反応式の係数（3と8）ぐらいを覚えておくと、式を書くとき楽だと思います。

エ. この式を書いた人は少ないのではないのでしょうか。覚えなくて大丈夫です。これは間違えてもディスアドバンテージにはならないと思います。

オ. イオン反応式ということに注意すれば、よくある酸化還元反応の式を書くだけです。しっかり合わせましょう。

カ. やっていることは簡単なので、確実に計算を合わせましょう。

II

キ. 知識問題です。ここがあやふやな人は電池の範囲を見直しましょう。電池は仕組みがわかれば計算するだけの点をとれる分野です。仕組みの部分であやふやなのは危険です。

ク. 式から求まることをただ求めるだけです。何をやっている問題かわからなくても、こういった問題は確実にとりましょう。

ケ. これも確実にとりましょう。

コ. 起電力の求め方は問題文に書かれているのでそれに従ってください。Ag<sub>2</sub>SO<sub>4</sub>でAgの濃度を二倍することを忘れないように気をつけてください。こういう問題でちゃんと二倍できるかで点差は開きます。

## 第三問

I : やや易~標準 II : やや易

I 気液平衡の問題です。気体の問題に苦手意識を覚えている人は多いと思います。気体関連の問題は、その操作において何が起こっていて、それによって何の数値が分かるか、ということ意識して解けばいいと思います。問題を解くにあたって必要な条件は何か、そしてその条件はどこで与えられているかと考えると解きやすいと思います。

II 電離平衡の問題です。基本的な問題なので、あやしいところがあればこの範囲を見直しておきましょう。

I

ア. 知らなかった人が多いと思います。これを機に覚えましょう。

イ. 体積変化を見落とさないように気をつけましょう。ここをとれる人と適当にやって間違える人の差は大きいです。

ウ～オ. 気体の問題全般に言えることですが、条件を確実に拾っていき、わかることからどんどん導いていくのがよいと思います。与えられた条件を見落とさないよう気をつけましょう。丁寧にやりましょう。

II

カ、キ. 平衡定数の式を見ればできると思います。

ク. 弱酸の平衡の問題です。よくある問題なので、確実に合わせましょう。

ケ.  $K_3$  を消去するだけの問題です。

コ. 弱塩基と強塩基があるとき、強塩基だけを考えればよい、というのもよくある問題ですね。時間がなくて解けなかった人は一度解いてみてください。

【生物】文責：平井

総評：やや易～標準

標準的な理解を問う問題が多く、実験の考察でも複雑な機構を問うような問題はあまり見られなかったので、比較的点数を取りやすいセットだったと思います。

第一問

I 本文が短く、実験も比較しやすいものだったので、高得点が可能な問題だったと思われます。

A 外、中、内胚葉性組織から生じるものは混同しやすいですが、まとめるなどして覚えておくようにしましょう。

B 是非取っておきたい問題です。

C 三種類の分泌タンパク質と細胞、組織の関わりを整理して考えましょう。

D 本文中の表現に注意して考えると答えにたどり着きやすかったです。

II クリアランスについては問われることがしばしばあるので、今回出来なかった人はよく復習するようにしましょう。

E 基本的な名称と個数などの数字は覚えておくようにしましょう。

F 出てくる数字は多いですが、やみくもに計算するのではなく、それぞれの数字が求める血しょう濃度にどう関係があるのか考察してから計算するようにしましょう。

G クリアランスは公式に数値を当てはめて計算し、その意味についてはよく聞かれることが多いので理解しておきましょう。

H 前問と同じくクリアランスはきちんと正解し、両者の違いについてはそのクリアランスと他の数字とどう違うのかを考えてから考察しましょう。グラフについては重要と思われる血しょう濃度が 0.15 の場合とそれ以降のときの数値を求めて、それに合うグラフを選びましょう。

第二問

I CCA1 と PRR5 の関わりはグラフから読み取るのは難しくはなかったと思われるので、そこさえ理解できるとうまく正解にたどり着くことができたでしょう。

A 取りこぼしたくない問題です。

B 気孔の開閉の仕組みは非常に問われることが多いので、今回うまく答えられなかった人は入念に復習しましょう。

C 二つのグラフをよく見比べましょう。

D 二つのグラフでは大きく違いがみられるので、それが明暗周期、生物時計とどのようにつながりがあるのか考えましょう。

E 明期と暗期で違いがある反応か考えましょう。

II グラフの違いが理解しやすいので、それを基にした考察と選択肢の記述をヒントに考えていくとよいでしょう。

F 基本的な知識です。取りこぼさないようにしましょう。

G よく問われるので取っておきたいです。

H どの処理で BSS1 の数、強度が変わっているのかを観察しましょう。

I それまでの設問と必要な語句を基に記述を作っていきます。

### 第三問

I 考慮すべき事項はあまり多くはないですが、食物網での生き物どうしの関わりを焦らずに考えることが必要です。

A 定番の記述なので、落とさないようにしましょう。

B 基本的知識です。

C 片方が増えたときにもう片方の生き物の数がどうなると考えられるか確かめていきましょう。

D 食物網の図を基に考えましょう。

E 寒流の強さと緑藻類のつながりをまず押さえ、緑藻類のみを食べる植食性鳥類がどうすれば食物網の回復となるかを考えましょう。

II 多様度指数に馴染みがなくても本文を丁寧に読み、表での数値どうしを比べていくと解答することはできたでしょう。

F 押さえておきたい知識です。

G 生物多様性に関する条約はいくつかあるので、整理して覚えておきましょう。

H 公式に当てはめ、三つの数値から推測しましょう。

I 前問の多様度指数が上がる条件と必要な語句から考えましょう。